福祉サービス第三者評価結果報告書【令和2年度】

年　　月　　日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人　東京都福祉保健財団理事長　殿

〒　273-0048

所在地　千葉県船橋市丸山2丁目10番15号

評価機関名　NPO法人　ヒューマン・ネットワーク

認証評価機関番号　　機構　06　―　163

電話番号　047-404-6300

代表者氏名　吉谷　健二　　印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号		評価者氏名	担当分野	修了者番号
	①		経営	H0306095
	②		福祉	H1701027
	③		福祉	H1501010
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認証保育所A型・B型			
評価対象事業所名称	ココファン・ナーサリー東小金井			
事業所連絡先	〒	184-0003		
	所在地	東京都小金井市緑町1丁目2番39号		
	TEL	042-386-5087		
事業所代表者氏名	園長　近藤　浩子			
契約日	2020 年　7 月　1 日			
利用者調査票配付日（実施日）	2020 年　8 月　3 日			
利用者調査結果報告日	2020 年　9 月　29 日			
自己評価の調査票配付日	2020 年　8 月　17 日			
自己評価結果報告日	2020 年　9 月　29 日			
訪問調査日	2020 年　10 月　6 日			
評価合議日	2020 年　10 月　7 日			
コメント（利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入）	事業書が大切にしている理念・方針・目標をどのように実現していのか、組織運営とサービス実践の専門家がきめ細かく丁寧に確認し、公正・公平な評価報告書の作成に努めた。今年度はWithコロナ下での評価の進め方につて書面やメール等の活用を図り面会による感染リスクの減少に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、
- ◉ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ◯ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ◯ 別添の理由書により、公表には同意しません。

年　　月　　日

事業者代表者氏名 代表取締役　山崎　知恵　　印

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：認証保育所Ａ型・Ｂ型〕　令和2年度

《事業所名：ココファン・ナーサリー東小金井》

1	**理念・方針 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）**
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、 特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）
	【学研ココファングループ理念】 　すべての人が心ゆたかに生きることを願い　今日の感動・満足・安心と明日への夢・希望を提供します 【保育方針】 　・子どもの養護と教育を両輪とした、子ども主体の心と体の育ちの支援 　・子ども一人ひとりの認知・発達に応じた個別の発達支援 　・地域社会のすべての子育て家庭に対する、様々な取り組みによる育児支援 【保育目標】 　・基本的生活習慣が確立した子 　・心も体も自立した子 　・自律した行動がとれる子 　・他人に対する思いやりと寛容な気持ちを抱き、援助ができる子 【ココファン・ナーサリーの取り組み】 　・子どもが本来持っている「育ちのチカラ」を伸ばします 　・子どもの主体的な活動を援助し、子どもの発達を促します 　・養護と教育の一体化を実践し、家庭と連携します
2	**期待する職員像 （関連　カテゴリー5　職員と組織の能力向上）**
	（1）職員に求めている人材像や役割
	・責任感がある人材：ココファングループでは、すべての社員・個々の職務に応じて「期待する役割」を設定しています。 個々の役割を果たしていく事で個人のスキルがアップ・キャリアアップが図られ、ひいてはグループ理念・ビジョンの達成につながるという考えに基づいた人材評価制度を取り入れています。 ・成功・達成させる信念をもっている人材：ココファングループでは、企業理念・ビジョンの実現に向けて、仕事の成功・達成を求めていきます。成功・達成する為の信念をもち、将来を予想しながら、柔軟な発想え仕事を進める人材を求めます。 ・コミュニケーション能力が高い人材：ココファングループが提供するサービスは、個人が単発でするのでなく、チームで協力しながら提供していくものです。したがって、相手の考えに耳を傾け理解する姿勢と、自分の考えを相手によりよく伝える工夫が必要です。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	・ココファン・マインドを守る：嘘をつかない・逃げない・ごまかさないの3つを守ってほしい。 ・信じてくれる人を裏切らない：私たちの事を信頼して下さっている保護者や子どもたちを裏切らない気持ちを持ってほしい。 ・仲間を大切にする：チームワークが一番大切な仕事である。 ・自分の役割を果たす：それぞれに与えられている役割に責任を持ち、役割を果たしてほしい。 ・子どもを好きでいてほしい：子どもの気持ちをどんな時でも受け止められる様な保育者であってほしい。 ・経験を積み上げる：子どもと過ごす日々を重ねる事で、経験という大きな財産を積み上げていってほしい。 ・保育のプロとしての使命感：技術・知識はが足りなければ、自ら勉強して、自分の腕を磨き保育のプロを目指してほしい。

《事業所名：ココファン・ナーサリー東小金井》

調査対象	利用する全園児の保護者を調査対象とした。（兄弟・姉妹で利用している場合は一世帯一人とした）
調査方法	保護者に挨拶文とアンケートを配布して頂き、アンケートは匿名で直接評価機関に郵送して頂いた。

利用者総数	24
利用者家族総数（世帯）	24
共通評価項目による調査対象者数	24
共通評価項目による調査の有効回答者数	13
利用者家族総数に対する回答者割合（%）	54.2

利用者調査全体のコメント

総合満足回答は「大変満足」46%「満足」38%で満足以上の回答計が84%と高い評価であった。項目別に90%以上の「ハイ」回答の項目は「園での活動が心身の発達に役立っているか」「活動は興味や関心を持てる内容か」「戸外遊びは十分確保されているか」「職員の言葉づかいは丁寧か」「園内は清潔か」「職員は子どもの気持ちを大切にしてくれるか」「怪我など職員の対応は信頼できるか」「プライバシーは守ってくれるか」等8項目であった。、80%以上の項目は「食事は配慮されているか」「時間変更は柔軟に対応してくれるか」「安全対策は十分か」「職員と相談することが出来る信頼関係があるか」等4項目であった。、70%以上の項目は「不満・要望はきちんと対応してくれるか」「保育内容の説明は分かり易いか」等2項目であった。60%以上の項目は「子ども同士のいさかいの対応は適切か」であった。50%以上の項目は「行事日程は配慮があるか」であった。50%以下の項目は「第三者委員に相談出来る事を説明してくれたか」であった。17項目中14項目82%が70%以上「はい」回答項目であり高い評価であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	13	0	0	0
「はい」回答率は100%で大変高い評価であった。代表的な自由発言としては「通い始めてからの成長がめざましい」等であった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	12	1	0	0
「はい」回答率は92%「どちらともいえない」回答率は8%で高い評価であった。代表的な自由発言としては「毎日子どもが園で楽しく過ごせている」等であった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	11	2	0	0
「はい」回答率は85%「どちらともいえない」回答率は15%であった。代表的な自由発言としては「食事は良いと思います」等であった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	12	1	0	0
「はい」回答率は92%「どちらともいえない」回答率は8%で高い評価であった。代表的な自由発言としては「毎日外には出ていると思います」「今年はコロナで少なくなっていて残念です」等であった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	5	1	0	7
非該当に回答された方が7名で、他の方は「はい」回答率は83%「どちらともいえない」回答率は17%であった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	11	2	0	0
「はい」回答率は85%「どちらともいえない」回答率は15%であった。代表的な自由発言としては「安全と思います」であった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	7	3	0	3
「はい」回答率は54%「どちらともいえない」回答率は23%であった。代表的な自由発言としては「土曜が多いので助かっています」等であった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	11	2	0	0
「はい」回答率は85%「どちらともいえない」回答率は15%であった。代表的な自由発言としては「相談した際には温かい言葉を頂けた」等であった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	11	1	0	1
「はい」回答率は92%「どちらともいえない」回答率は8%であった。代表的な自由発言としては「新しく清潔で整理されている」等であった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	12	1	0	0
「はい」回答率は92%「どちらともいえない」回答率は8%であった。代表的な自由発言としては「職員の方はみな優しく、子供にも保護者にも向き合って下さっている」等であった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	9	0	0	4
非該当の回答の方以外は「はい」回答率は100%で高い評価であった。代表的な自由発言としては「丁寧に対応下さっているので安心」等であった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	2	1	0	10
無回答の方10名以外では「はい」回答率は67%「どちらともいえない」回答率は34%であった。代表的な自由発言としては「そういう機会がない」等であった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	12	1	0	0
「はい」回答率は92%「どちらともいえない」回答率は8%であった。代表的な自由発言としては「丁寧に子の面倒を見て下さっています」等であった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	12	1	0	0
「はい」回答率は92%「どちらともいえない」回答率は18%であった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	10	3	0	0
「はい」回答率は77%「どちらともいえない」回答率は23%であった。代表的な自由発言としては「ブログを増やしてほしい」との要望が寄せられた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	10	2	0	1
「はい」回答率は77%「どちらともいえない」回答率は15%であった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	4	4	2	3
「はい」回答率は31%「どちらともいえない」回答率は31%「いいえ」回答率は15%であった。				

Ⅰ 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

No.	共通評価項目
1	カテゴリー1 リーダーシップと意思決定

サブカテゴリー1（1-1）

事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　7／7

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している　　評点（○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当

評価項目2
経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている　　評点（○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当

評価項目3
重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している　　評点（○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当

カテゴリー1の講評

保育理念は繰り返し確認し、日々の実践を通じて理解するように努めている

保育理念・方針・目標・取り組みを玄関に掲示して、職員には職員会議で繰り返し話し、また、保育の全体的な計画の冒頭に記載し、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿、ねらい、養護と教育に展開している。保育理念等は日々の実践で理解することを大切にしている。職員一人ひとりは様々な保育体験があり保育感に差があるのは事実であるが、保育者間で話し合いの機会を持ち、大切にしたいキーワードを共有・実践し、振り返り話し合って、当園の保育理念・方針・目標をより高いレベルで実践するように望みたい。

子ども主体、職員主体の方針でリーダーシップを発揮している

運営ガイドラインには施設長の責務と職務・役割が明記されている。今年度当園が取り組むべき最重要なテーマは①全職員の保育理念、価値観を共有し方向性を統一すること ②子どもの主体性を尊重した保育の質の向上を図ること ③職員の自分で考え行動する主体性を尊重すること ④話しやすい働きやすい職場づくり ⑤保育所保育指針と運営ガイドラインなど基本の徹底 ⑥個別職員の育成等である。日々昼ミーテイングや職員会議で話し合い園長は優しく助言しリーダーシップを発揮している。

職員会議、日々の打ち合わせ、クラス会議等で円滑に運営している

職員会議は定例で月1回、園全体の事、本部からの伝達事項の確認、各クラスの保育の報告、個別の園児状況、運営ガイドラインの確認、運動会など行事の進め方、人権・倫理等の再確認、運営体制等を共有している。定例の職員会議まで待てない時は、臨時で集まり説明をする。また、必要に応じては、口頭で個別に伝えたり、事務所内に掲示をして、周知・徹底している。クラス会議は日々子ども様子と反省を話し合い、週案、月案等の作成時に一定期間の振り返りを行っている。

	カテゴリー2
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー1（2-1）

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6／6

評価項目1
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2（2-2）

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点（○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当

評価項目2
着実な計画の実行に取り組んでいる

評点（○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

カテゴリー2の講評

環境条件を把握し、あるべき園の目標と現状を比較し重要課題を抽出している

園を取り巻く内外の環境条件を分析し、あるべき園の目標と現状を比較し重要課題を抽出している。第一の課題は地域の数多くある園の中から当園を選択される方が多くなるように、保育理念に基づく保育を行って認証保育園としての存在価値を高めることが重要課題である。第二の課題は職員の確保と育成に努め職員体制の強化を図ることである。そのために残業の削減、有給休暇の取得、話しやすい働きやすい職場づくりである。第三の課題は重要課題を皆で考え解決策を具体化することである。

中期計画を設定しているが、現状に合った計画案に見直しが求められる

保育理念・方針・目標の実現のために中期計画を作成し、今年度の計画を設定している。今年度計画は園の存在価値をPRし、園児数を増やすことが目標で、問い合わせや見学には当園の方針や取り組みを丁寧に説明している。職員の定着率の向上については、出来るだけコミュニケーションを取り、丁寧に話を聞き相談に乗るようにしている。中期計画を当園の現状に合った計画になるように、見直し園の存在価値を引き上げる対策を具体化することが望ましい。

保育の質向上サイクルの連動性が向上するように期待したい

中期計画、事業計画に基づいて、全体的な計画、指導計画が展開され、保育理念の確認のもとに、保育を実践し、日々保育日誌で実践を振り返り、週・月・年間指導計画に反映している。保育者個人の自己評価は年2回自己評価・期待役割シートで行って目標を設定している。園の自己評価は今後に期待したい。一連の保育の質の向上のサイクルの連動性を確保するために、今後は個別に切れずに連動性と一貫性をもって運営されることが望ましい。

	カテゴリー3
3	経営における社会的責任

サブカテゴリー1(3-1)

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2／2

評価項目1
社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点(○○)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当

サブカテゴリー2(3-2)

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4／4

評価項目1
利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点(○○)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当

評価項目2
虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点(○○)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(○○)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点（○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

倫理綱領、子どもの人権など運営ガイドラインに網羅され徹底している

運営ガイドラインには保育理念・方針・目標、倫理綱領、服務規程（基本ルールや言葉づかいなど保育者の心得）、子どもの人権（保育指針、憲法、児童福祉法、児童憲章、子どもの権利擁護条約など）、虐待防止、個人情報保護方針等が規定してあり、各々分野別にファイルされ見やすく整理されている。初任者研修、フォローアップ研修、階層別研修等で全職員に周知し、また、職員会議にて読み合わせガイドライン浸透クイズを行い理解度を確認している。法・倫理の遵守に関しては年2回自己評価し、e-ラーニングを毎年受講して徹底している。

苦情解決制度を玄関先に提示し、意見・苦情を保育の質向上の糧としている

苦情解決制度のフローチャートを玄関に掲示し、入園時に重要事項説明書をもとに説明し、保護者会でも説明を行っている。玄関にはご意見箱を設置し、行事等後にアンケートを行い、年2回の運営委委員会より、意見を集約している。苦情が発生した場合は、苦情解決のフローチャートを元に、園長に報告をして必要に応じて第三者委員や本社に報告を行い、早期解決に努めている。

行政の会合に出席し共通の地域課題の解決に努力している

行政や発達支援センターが行う講演会には出席し、地域の子育て支援の課題解決に協力している。市や警察との協働で近隣散歩コースの交通危険個所の点検に参加し、近隣で起きた交通事故には防犯カメラの画像提供で協力するなど、地域の交通安全対策を市・警察と協力して行っている。また、不審者対応には地域交番が定期的に巡回してくれている。園運営の透明化はホームページにて第三者評価の公開を行い、また、地域ボランテイアを受け入れるなどにより運営の透明化に努めている。

カテゴリー4

4 リスクマネジメント

サブカテゴリー1（4-1）

リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリー2（4-2）

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4／4

評価項目1
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当

カテゴリー4の講評

今年度は新型コロナ感染防止を最優先課題として徹底して取り組んでいる

今年度は新型コロナ感染防止が最優先課題であり、本社からの運営ガイドライン「新しい生活様式に配慮した保育」に従って、手洗い、消毒、マスクの徹底、検温、健康把握、保育現場での3密対策を行い、子ども、保護者、職員、関係者全員の健康管理を徹底している。また、園内の消毒、玄関足ふきマットの次亜塩素酸水の塗布、玩具類の消毒、掃除・整理など感染対策の徹底を図っている。また、玄関までの送迎（0歳児は部屋入り口）など徹底して感染防止策を実施している。

ケガ事故防止に日々努め、災害避難訓練を毎月行っている

事故防止対策は事故怪我報告書、ヒヤリ・ハット報告書をもとに、年齢別、事故別、場所別に対策を具体化し、職員会議で徹底している。また、園内の整理・整頓、危険個所チェック、危険個所のクッション等による対策、怪我発生時には朝礼・職員会議にて原因と対策を共有し事故防止に努めている。地震・火災を想定し毎月避難・消火訓練を実施・検証し、年1回は消防署の協力のもとに消火訓練を行っている。また、備蓄食品の定期点検、防災食づくり、簡易トイレの設営、引き取り訓練を行っている。

情報の管理は運営ガイドラインに沿って徹底している

情報管理は運営ガイドラインに沿って徹底し、個人情報保護や情報の機密保持に関して全職員は宣誓書を提出し退職後も守ることを約束している。情報の管理は紙ベースの園児のファイルや運営に必要な資料はファイリングし必要な時は職員が活用できるように管理方法を徹底し、鍵付の書庫に保管している。情報漏えいを防止するため、管理者が使用するパソコンと職員が使用するパソコンを分け、資料はクラウドに保管している。

カテゴリー5

5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1（5-1）

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12／12

評価項目1
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

評点（○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当

評価項目2
事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

評点（○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当

評価項目3
事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

評点（○○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当

評価項目4
職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

評点（○○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金、昇進・昇格等）・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2（5-2）

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3／3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点（○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

新任は全員（非常勤も）が本部で初任者研修を受け理念を共有している

職員の採用は主に本部が行い、新人、未経験者、他法人での経験者とも常勤・非常勤全員が本部で初任者研修を受け、企業理念、保育理念・方針・目標など研修し、ココファンマインドを学んでいる。新人には先輩職員がコーチになり、話しやすい・相談しやすいコーチ役のもとで個人別育成を図っている。また、コーチにはコーチ研修があり、役割やコーチ技術を学んでいる。当園は長く働ける職場をめざして、産休の方や子育て中の方、ブランクのある方などの方に配慮して、多様な働き方ができる様に職員配置と勤務時間を配慮している。

キャリアパスに基づき、研修体制が充実している

キャリアパスとして、一般から上級まで職務・役割、求められる能力・教育、期待役割項目等が明示されている。期待役割シート（全般）と自己チェックリスト（保育）で自己評価の上、年2回の期待役割面談を通じて役割や目標を自覚して個人別育成計画を設定している。研修は本社にて新任研修、階層別研修、フォローアップ研修、専門研修等があり、外部研修、園内研修も実施するなど充実している。現場育成は園長が現場で優しく助言し相談し易い体制で、指導計画の立案、保育実践、情報の共有、実践の振り返り、成功事例の報告と表彰などで育成している。

職場は発言し易く、協力し合い働きやすい職場である

職員会議では全員が発言できるように配慮し、クラス会議や少人数の会議で自発的に発言し易い場を設定している。また、委員会などで役割を持ち個人の存在感を尊重している。職員の話をよく聞き、成長したことや努力したことを認め、職員間でも話し合い協力し合い助け合うチームワークを大事にしている。また、残業を削減し、希望休を聞きシフト編成に配慮し働きやすい職場づくりに努めている。今後さらに、長く働きたい魅力ある職場に発展できるように期待したい。

	カテゴリー7
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1（7-1）
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

（働きやすい職場づくり）
職員体制は常勤・非常勤職員が価値観を共有して、協力し合って働きやすい職場づくりが重要課題である。そのため、職員会議では全員が発言できるように配慮し、クラス会議や小人数の会議で自発的に発言し易い場を設定し話しやすい職場づくりに努め、また、委員会などで役割を持ち個人の存在感を尊重している。職員の話をよく聞き、成長したことや努力したことを認め、職員間でも話し合い協力し合い助け合うチームワークを大事にしている。また、残業を削減し、希望休を聞きシフト編成に配慮し働きやすい職場づくりに努めている。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

働きやすい職場づくりの結果は、職員アンケートの自由発言から確認すると、「施設長に相談しやすい」「職員の思いをよく聞いてくれる」「職員の人間関係が良い」「個別育成計画があり毎月相談できる」「全職員が全クラスに入り助け合っている」等の発言で成果が確認できる。今後の課題として職員の個人力量差の解決のため個別育成の強化、園の進むべき方向性の中長期計画の具体化などが求められる。さらに長く働きたい魅力のある職場として発展することが期待され、職員一人ひとりが保育所保育指針と園の保育理念を基礎として、やりたい保育を創意工夫・実践し自己実現が充実できる様に期待したい。また、一人ひとりの長所や努力と成長を一層浮き彫りにして、職員間で他利に徹し、感謝の信頼関係を深め、個性を尊重し、一人ひとりの持つ力を最大限発揮でき自己実現できる職場を期待したい。

評価項目2
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

（子ども一人ひとりに合わせた丁寧な保育）
一人ひとりの園児と向き合って丁寧な保育を行い、子どもが主体的に人・もの・ことにかかわれるように見守り、自分で遊びたい玩具や絵本を選択し遊びに集中できる保育を心がけている。0歳児には保育者との抱っこや触れ合いなど愛情のある関わりで笑顔を見せ安心感、自己肯定感の基礎を育んでいる。1～2歳児には発達に合わせて一寸だけ先を見て声をかけ、コーナーでブロック遊び、パズル、おままごと、ゲーム、お手伝い遊び、ごっこ遊びなど自由に夢中になって遊び、自発性や好奇心、集中力、思いやりなど一人ひとりの成長に合わせて育んでいる。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

子ども一人ひとりの成長に合わせた丁寧な保育の努力は保護者アンケートで確認すると「子どもが楽しく過ごせ、成長が目覚ましい」「職員は子どもにも保護者にも向き合ってくださる」「毎日丁寧に対応してくださる」「連絡帳が分かり易く読むのが楽しみ」など感謝の意見が多くアンケート集計では満足以上の回答が85%と高い評価であり、努力成果が認められる。今後さらに保育の質を向上するためには、保育日誌の振り返り記録は子どもの活動の様子と自己評価を書き、翌日の計画に反映しているが、さらに、子どもの遊ぶ姿と何を体験し学んでいるかを観察し、保育者の環境設定と関わりを評価・反省として記録するように望みたい。また、複数の職員で話し合って記録することが望ましい。さらに、遊びから子どもが何を体験しているかを保護者と共有するように期待したい。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目
1	サブカテゴリー1 サービス情報の提供　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　5／5

評価項目1
利用希望者等に対してサービスの情報を提供している
評点（○○○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている	○非該当

サブカテゴリー1の講評

ホームページやパンフレットなどで利用希望者に分かりやすい情報の提供がされている

ホームページには、ココファン・ナーサリーの基本となる保育の理念・方針・目標と取り組みとして「子どもの本来持っている育ちの力を伸ばす」「子どもの主体的な活動を援助し、子どもの発達を援助する」「養護と教育の一体化を実践し、家庭と連携する」を表明している。園の情報として、保育料、1日の流れ、主な年間行事予定、よくある質問（給食・アレルギー・保護者に準備するもの・行事について・延長保育）が示されている。利用希望の見学者に配布するパンフレットにも保育料や1日の保育の流れ、行事についてなど記載されている。

入園希望者には個々の家族の状況に応じた相談や説明を行っている

利用希望者の見学会は6月から毎週1回の予定で実施している。事前の電話予約で希望を調整しているが、個々の事情を考慮して、可能な限り個別の対応を行っている。見学は、園長と保育士が対応し、施設案内のパンフレットをもとに保育室や給食室、その他、園内を案内しながら、子どもたちの生活の実際を伝えている。駅に近く、鉄道の高架下という保育所の立地の条件も確認してもらったうえで、安心して預けられる場所であることを了解してもらっている。

利用希望者に必要な空き状況などの情報を市に定期的に行っている

日頃から電話による見学希望の問い合わせが多く、見学会の開催の案内を行うとすぐに定員に達する。電話での利用を希望する人からの、入所できないと困るなどの個別の相談にも丁寧に応じている。利用希望者に求められる、園で受け入れ可能な定員の空き情報は、毎月17日に市に情報提供をしている。市役所を通じて、園のパンフレットが市内の施設等に設置されている。市内の保育施設とともに、年度ごとの市の「保育施設等入所案内」には、開所時間、利用料、定員などの基本情報が掲載されている。

2	サブカテゴリー2		
	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6／6

評価項目1
サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点（○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当

評価項目2
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点（○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当

サブカテゴリー2の講評

個別の面談や入園説明会で重要事項を説明して、保護者の理解と同意を得ている

入園の内定が決まると各家庭に「生活の手引き（重要事項説明書）」を渡して、事前に読んでいただくようにしている。全体で行う入園説明会では園の基本理念、保育・教育の内容、1日の生活の流れなど、基本的なルールのポイントを押さえた説明に心がけている。入園の契約書によって保護者の同意を得ている。全体会の説明で十分でないと思われる方や保育を開始するのに必要な細かな点についての質問などは、終了後、個別の面談に応じている。全体会の後も電話での相談や問い合わせにも丁寧に対応している。

慣れ保育は安心して園に通えるよう各家庭と相談しながら進めている

保育の開始時は、新しい環境に対して子どもに安心を伝えるためにも、保護者と担当保育者との関係がつくれるよう、職員配置を手厚くする等の配慮をしている。そのためにも、慣れ保育は1時間ずつ伸ばしていくことを原則に、長めの期間を必要とすることを伝えて、理解と協力を得て実施している。慣れ保育のスケジュールは個々に違いが起こるので、入所前に保護者とよく相談をしておくが、保育を開始してからも、各家庭の事情や子どもの様子を見ながら、柔軟に進めている。

転園や退園に際しては、転園先への情報提供など継続性に配慮している

本園が小規模な保育園であるため、子どもの多い保育園を希望したり、急に認可園が決まったり、幼稚園への転園などが理由でサービスの終了になることもある。急な対応を求められることもあるが、保護者の保育への希望を聞き、気持ちを尊重して対応している。半月程度で転園になることもあるが、その場合にも、なるべく退園の手続きをスムーズに行い、次の保育を受ける施設との継続性に配慮している。園からは「元気でね」カードを渡し、退園後も待っていることを伝えて、気持ちの良い別れになるように配慮している。

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12／12

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点（○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況（保護者の意向を含む）の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	○非該当

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点（○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点（○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

サブカテゴリー3の講評

一人ひとりの子どもの状況は、「経過記録」にまとめられ、共有化されている

新入園児には各家庭に「生活状況調査書」を記入し提出してもらい、家庭での生活の様子や集団生活で必要な食事・睡眠・排泄の状況・健康の状況等を確認したうえで、園での保育を進めている。入園後は、保護者との面談や連絡帳を通じて、子どもの理解を共通のものにして、また、定例の個人面談を年2回実施し、家庭と園での様子を確認し記録している。日々の保育日誌等をもとに、一人ひとりの子どもの「経過記録」が0・1歳児は月ごと、2歳児は3ヶ月ごとに、発達の姿とともに記録されている。

保育の指導計画は、随時、子どもの実態に応じて見直しをしている

保育の全体的計画は職員会議で内容を確認し、それをもとに新年度の指導計画を職員全体の話し合いで作成している。月案や週日案はクラス担当職員が計画するが、園長と協議し、他クラスの職員とも共有しながら進めているので、日々子どもの様子を見ながら、より実態に即した内容への見直しを行うことができている。個別指導計画は、担当職員が作成したものをクラス内の話し合いで共有し実施する。一人ひとりの計画に沿って毎月振り返りを行い、翌月の計画に活かしている。

毎日の保育の様子を通じて、保育内容を保護者に分かりやすく伝える工夫をしている

保護者会やクラス懇談会を通じて園で行う保育内容の全体的な計画のことを伝えている。日々の保育のなかで保育の考え方やポイントとなるところを、園便りやクラス便りで子どもの成長のエピソードを交えてわかりやすく伝える工夫をしている。園内の長さのある廊下の壁面など利用して食育、行事、健康などの情報や子どもたちの活動の写真が見やすく掲示されている。ブログを使用し、主に保育の様子を写真と共に伝えている。今年は、感染症対策のため、オンライン参加で保護者会や行事を開催した。

5	サブカテゴリー5		
	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当

サブカテゴリー5の講評

個人情報保護方針は事前に説明し同意を得ている

個人情報保護方針は入園時に重要事項説明書にて説明し、外部と情報のやりとりをする必要が生じる場合（病気・ケガの診療、行政連携など）については保護者に同意を得ている。また、情報誌等に子どもの写真が写る場合には別途同意を得ている。日常の保育で子どものプライバシーを尊重し、羞恥心に配慮する場合として、オムツの交換や着替え等は外部からは見えない奥まった場所で行い、トイレは囲いを設け配慮してあり、水遊びの際はブルーシートで目隠しをして実施している。

子どもの権利擁護を研修し職員行動を話し合って徹底している

子どもの権利擁護に関しては、運営ガイドラインに子どもの人権（憲法、児童福祉法、児童憲章、子どもの権利擁護条約など）を記載し、研修で学び、職員会議などで確認し学び合うようにしている。子どもの権利を守り意思を尊重するために、どのように職員が行動すればよいか話し合い、子どもの着替えやオムツ替えの時にはいきなり介助するのではなく、一声かけて行うようにしている。基本的には保育所保育指針に従って各年齢別の指導計画に展開する場合に保育内容・ねらい・配慮事項を検討し子どもの主体性を尊重した保育を心がけている。

職員はセルフチェック表を活用して言葉遣いを気を付ける様に努めている

運営ガイドラインに記載の虐待防止を職員会議で読み合わせ、虐待防止の本社研修や外部研修に参加時には園内で共有している。職員は権利擁護セルフチェック表を活用し自己評価して言葉遣いを気を付ける様に努めている。保護者支援については、ポスターやステッカーで啓発し、虐待防止早期発見チェックポイントを参考にして、万が一虐待が疑われるような場合には、関係機関と連携しながら子どもの保護と保護者支援を配慮している。

6	サブカテゴリー6		
	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点（○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点（○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当

サブカテゴリー6の講評

運営ガイドラインを研修し、浸透度クイズで理解度を確認し徹底している

保育サービスの基本事項は運営ガイドラインで明確にし職員で共有している。運営ガイドラインには保育のあらゆる分野について基本的なプロセスが明確にしてあり、研修で学び、職員会議等で読み合わせ、ガイドライン浸透クイズで理解度を確認している。子どもの人権、服務規程、保育の手引き、散歩マニュアル、行方不明児対応マニュアル、安全管理マニュアル、衛生管理マニュアル、毎日の業務手順（床の消毒方法、電話のかけ方、ミルクの作り方等）子どもの視線でのうがいや手洗いについては絵入りで分かりやすくなっている。

実施状況を振り返り、修正の必要な個所を見直し、最新のガイドラインに更新している

運営ガイドラインの見直しは、法律の変更、ニーズの変化、環境の変化などに対応し、本部で各園の代表で委員会を作り、年間の実施状況を振り返り、修正の必要な個所を見直し、最新のガイドラインに更新している。見直した運営ガイドラインに基づき、園独自の業務手順や行事、保育の進め方、感染症予防や連絡、消毒液の使い方作り方等も定期的に見直している。

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

	サブカテゴリー4		
	サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	36／36

1 評価項目1
子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当
●あり ○なし	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている	○非該当

評価項目1の講評

子どもの発達段階や年齢や個性など個人差を理解して、職員の協力で保育を進めている

保育を行うなかで大切にしているのは、一人ひとりの子どもの発達の状況や個性をよく見て、子どもの思いを理解することであり、全職員で共有している。子どもが今興味をもってやっていることを尊重し、満足するまでその遊びを見守る対応が職員間で一致している。「もっとやってみたい」につながるように保育室のおもちゃの選定、コーナーつくりなど環境設定にも職員同士の協力が生かされている。気になることや困ったことに気付いたときは、その子どもの行動の良いところに注目して、エピソードを通して子どもの行動の理解を深めている。

遊びたいという子どもの気持ちが発揮できる柔軟な集団つくりの工夫がされている

年齢別のクラス分けを超えて、子どもに合った活動や集団になるよう柔軟に対応している。同じ年齢であっても誕生月齢によって子どもの求める遊びや関わりが違うので、子どもに合った集団に入れることや、一人遊びを尊重したり、やりたい遊びで小集団に分けることもある。0歳児であっても子ども集団を感じる経験を大切にして、無理のない範囲で他のクラスを訪問し、異年齢との交流を行っている。毎日の散歩は1・2歳児合同で出かけることも多く、2歳児が1歳児の手をつなぎ、1歳児は2歳児の行動を見るなどの交流が自然に行えている。

一人ひとりの子どもを尊重した丁寧な対応を実践している

年齢の低い子どもの場合、子ども同士のトラブルは保育者の対応で未然に防ぐことを申し合わせている。そのために、子どもに合わせておもちゃの数を調整したり保育者の配置も手厚くするなどの配慮をして、余裕のある落ち着いた環境になるようにしている。トラブルがあった時にも、子どもは保育者に思いを聞いてもらい、気持ちを代弁してもらう体験を重ねることで、子ども同士の理解と尊重し合う関係の作り方を学んでいる。けがにつながってしまったときは、園長と担当の保育士で保護者に事情や経過を伝えて、謝罪し、理解を得ている。

2 評価項目2
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

登園時の子どもの様子の聴き取りは、保護者の状況に合わせて行っている

保護者は登園時には「保育ネット」に登園時刻と帰りの予定時刻の入力を行う。子どもの検温をする時間は、保護者一人ひとりとのコミュニケーションの時間として、個々の状況に合わせて安心感が伝わるような対応をしている。職員は「登園チェック表」に、保護者から聞き取った前日から登園前までの子どもの様子を記録している。感染症対策もあって、受け入れ時の情報収集はポイントを押さえ、時間を短くしてできるように工夫している。この記録は全職員で共有されている。

保護者と一緒に基本的な生活習慣を身に付ける取り組みをしている

基本的な生活習慣の獲得は、家庭での様子を確認しながら、無理のないように進めている。園便り、クラスだよりには子どもたちの園での生活の中で、どんなに小さくてもやろうとしている気持ちや、周りとの関係で生まれる意欲などをエピソードとして伝えている。子どもにどんな身のまわりの準備が必要かをお知らせしている。食事については栄養士からの食育情報と個別の相談、アドバイスも行っている。

降園時は一人ひとりの保護者に、一日の子どもの様子を丁寧に伝えている

その日の園での子どもの様子は、一人ひとりの連絡帳や園内の写真等の掲示物で伝えられる。お迎え時には、保護者に一日の子どもの様子をできる限り口頭で伝えられるよう、クラス担任が対応に当たるようにしている。担任がいないときには、遅番の職員が申し送りを受けて対応している。日中の活動では、異年齢での交流が多く、クラスを超えて園全体で子どもの保育を行っているため、他クラスの子どもの様子も共有されやすい。ケガなど説明や謝罪が必要な場合は、担任が直接、状況を伝えて対応している。

3 評価項目3
日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動（外気浴を含む）を実施している	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

一人ひとりの子どもの遊びたい気持ちが発揮できる環境が用意されている

低年齢を中心とした保育で、充分遊びに集中できるために、休息を大切にしている。子どもの状態を判断して、年齢や子どもの状況に応じて無理のない保育を進めている。日々変化する子どもの成長と発達に合わせて、部屋や遊びの空間を調整し、自分の遊びたいおもちゃや見たい絵本などが自分の手で取れる位置の棚に整理してある。午後の時間は、一人ひとりの子どもの気持ちに合わせて、自由に遊びが展開できるように、時間と場所を確保している。子どもの状態に応じて、短い散歩も行っている。

言葉を育てる環境を整えることによって、言葉に対する感覚を育てている

言葉を育てる環境として、保育者の生の声での関りを大事にしている。特に0歳児では子どもの気持ちを受け止めたやり取りに配慮し、伝え合う気持ちのもとになるように関わり方を工夫している。わらべうたなど月齢に応じた語り掛けも行っている。子どもの状態を見ながら、異年齢との関わりも自然に行えていて、自分と年齢の違う子どもの関わりが、良い関係で刺激を与え合っている。絵本の読み聞かせを行ったり、興味を持った内容から果物やアイスクリームを作って、ごっこ遊びに発展させるなど、豊かな活動に広げる努力をしている。

自然に触れながら、たくさん歩いて体力をつける「歩き散歩」を実施している

園の周囲は自然環境に恵まれている。隣接する大学のキャンパスは、ドングリを拾ったり子どもたちの能力に適した坂道があったり、安全に過ごせる場所である。年齢の高い子どもが好む大型遊具がある公園なども近くにある。季節によってカモやセミなど生き物にも出会うことができる。環境を活かして「歩き散歩」を毎日楽しむことができている。部屋からすぐに出られる園庭は、鉄道の高架下なので小雨でも充分遊ぶことができる。パセリやピーマンなど見たり触れたりできるように、野菜の栽培にも取り組んでいる。

4 評価項目4
日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点（○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目4の講評

行事の実施は子どもを中心に、無理なく楽しんで取り組める方法で行っている

本園は0～2歳児を中心とした園なので、行事は子どもを中心に、子どもたちに無理がなく、大人と一緒に雰囲気を楽しめることをねらいにしている。行事の内容はそれぞれの子どもが主体となれるように、日々の保育で子どもたちが意欲的に取り組み、展開しているお店屋さんごっこのような遊びや、子どもたちが興味を持って楽しんでいる体を動かす活動を、そのまま活かして形にしている。職員間でよく話し合い、相互の協力で行事の内容を作り上げている。

子どもと家庭の状況に応えて、行事の実施形態を工夫して行っている

感染症を予防するため、集団での行事が実施できないので、例年なら家族とともに楽しむ夏まつりを、今年はオンライン行事として実施した。手遊び・絵本の読み聞かせ、制作活動としてマーブリング遊び、「夏の昆虫について」、「一緒に体を動かすレッツダンス」などの映像を各家庭に配信した。保護者のアンケートには、「子どもが真剣に絵本に集中していた」「手作り感があって心が温まりました」などの声が寄せられている。子どもと家族の状況に応えた保育が工夫されている。

誕生会や「大きくなったね会」など、保護者とともに成長を祝う会を行っている

毎月、誕生月の子どもを祝う会が園の全体行事として行われている。園便りで、今月が誕生月に当たる子どもの様子が家庭にも伝えられる。それぞれの成長や子どもによって違いはあるが、みんなにお祝いしてもらえる誕生会を楽しみにして、いつが自分の番かを待ちかねている子どももいる。1年の年度の最後の全体行事として「大きくなったね会」がある。卒園式のない園だが、1年を振り返って子どもの成長を喜び合う場として実施している。金曜日の夕方、多くの家族の参加を得て実施している。

5 評価項目5
保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点（○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当

評価項目5の講評

延長保育は、お迎えの時間まで落ち着いて過ごせるように配慮している

延長保育は、お迎えの時間まで子どもが落ち着いて過ごせるよう配慮がされている。0歳児は慣れた自室で過ごすことを基本とし、1・2歳児は子どもの状態を判断して、一気に一部屋に集めず、それぞれの子どもが過ごしやすい場所に、人数を分けて延長保育を始め様子を見て合流していく工夫をしている。好みの遊具を準備したり、静かに過ごせるコーナーを作るなど、一人ひとりの子どもの気持ちに合った環境づくりを行っている。希望のある場合には、18時以降に手作りの補食の提供を受けることが可能である。

保育が長時間になる子どもには、健康管理と気持ちの安定に配慮している

長時間の保育になる子どもには、休息の保障や水分の補給等、一人ひとりの体調の管理と安心が感じられるような環境になるよう配慮している。特に水分については、体調の確認とともに、不足が起こらないよう様子を見て与えている。音がでるもの、乗り物など少人数で遊ぶものや、その子どもの気持ちに合ったおもちゃを準備し、保育者の温かさの伝わる対応になるよう心掛けている。降園がスムーズにできるよう、帰りの持ち物の準備を整え、おむつの取り換えもお迎えの時間に合わせて行っている。

子どもの様子は延長保育日誌や登降園チェック表に記録し、引き継いでいる

朝の8時30分までと夕方の16時30分以降は、クラスを超えて園全体で対応し、その状況を「延長保育日誌」に記録している。昼間の保育の情報や体調、保護者に伝達の必要なことなどは、「登降園チェック表」に記録して、引き継いでいる。特に伝えたいことは、特記事項に記録するという申し合わせが職員間のチームワークで共有されている。延長保育のお迎え時には、いずれかのクラスの担任が必ず入っているので、残った子どもの気持ちに配慮した対応や、保護者との直接の引き渡しができている。

6 評価項目6
子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点（○○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	○非該当

評価項目6の講評

食べることが楽しいと感じられるような雰囲気づくりを大切にしている

「食べるって楽しい、友だちと食べるともっと楽しい」を第1に、落ち着いた雰囲気づくりに努めている。食事の介助には、担任ほか栄養士も参加し食べる意欲を大切にしながら、自分の力で食した時は褒め言葉や拍手で認め、自信につなげている。給食では無理強いしたり完食に拘らず、個々の発達や食の進み具合に合った食事で安心して食べられるようにしている。野菜や果物は新鮮な品を使うことで子どもの興味や味覚を育てている。行事食や誕生会食、手作り誕生ケーキを提供して楽しい雰囲気を醸し出し、笑顔の会話からは喜びの声がはずんでいる。

子どもの状態に応じた食事の提供や食育で食べることに意欲を持てるように育んでいる

0歳児の離乳食は、発達状況に応じた大きさや固さ、形状などに配慮し提供している。咀嚼や嚥下、好き嫌いなど、個々に合わせてゆっくり噛んで飲み込めるような支援をしている。アレルギー児対応では、面談や調理、配膳まできめ細かく点検し、提供時の確認、食事時の配膳や他児との動線に配慮して実施している。食育ではパセリを栽培してオムレツに飾って味わった、大好きなバナナを切りみんなで分け合って食べている、味覚体験ではケチャップ、醤油、味噌、カレー味を少し味見して驚きや発見を楽しむなど年齢に合わせた取り組みを工夫し実践している。

子どもや保護者に食について関心が持てるように展示やお便り等で知らせている

朝食は1日の活力源であり生活のリズムを整える役目を持っていると食の大切さを知らせている。給食だよりや献立表の配布で食の理解につなげている。冬季には、その日の献立に使用する食材を、子どもの手に握れる量でラップに包み、献立表脇にあるポケットに展示し、触って感触を体験できるようにしている。廊下には季節の野菜を写真パネルにして作り掲示しておくと、降園時に親子で今日の食材を貼り合わせるなど、遊びから食べものへの関心につながるように工夫をしている。会社から提供される絵本の食のページに刺激され園で試して活用している。

7 評価項目7
子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点（○○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	○非該当

評価項目7の講評

ひとり一人が保育者と一緒に健康や安全に関心が持てるように援助している

年間保健計画に、生活の中で関わる食事、排泄、午睡、遊びが組み込まれている。温度、湿度、換気に配慮し薄着の習慣の配慮もしている。特に手洗い嗽は年齢に合った絵本を利用して知らせている。保育者と一緒に石鹸の使い方、指間、指先、腕、拭き方など丁寧に伝えている。嗽の難しい子は、水分補給と一緒に麦茶を飲むように準備してある。鼻のかみ方の不十分な時は、さり気なく拭き、気持ち良さを感じるようにしている。褒めて認めての言葉をかけを大切にするとともに、動線に配慮したゆとりある環境設定の中でやる気を持たせ自信につなげている。

子どもの心身の健康を支援する保育に取り組んでいる

玄関には、靴底の消毒用マットを敷き、園内は清潔に保たれている。日々の健康状態の把握は、登園時の健康チェック、視診、検温（登園時・午睡後）と保育中の様子（元気、機嫌、熱、食欲、顔色、睡眠、便、嘔吐）を把握している。必要に応じて園長に報告し、保護者に連絡をするようになっている。怪我予防は年齢に応じた言葉かけを大切にし、怪我が起きた時は、園長に報告しマニュアルガイドラインに従って対応している。職員は園内外の保健に関する研修に参加し、知識や対応を学んでいる。園内では、嘔吐処理の訓練を実施し対応できるようにしている。

保護者には情報を提供し病気の予防に努めている

保護者連携では、健康カードをつくり身体検査、健康・歯科健診結果を知らせ、保護者からは予防接種報告で、毎月確認できるようになっている。園・クラスだよりに保健に関する情報や、ワンポイントを載せて提供している。乳幼児突然死症候群の予防では、重要事項説明書に記載し、入園説明会で詳しく説明している。園では午睡中は傍から離れないこと、特に0歳児は5分、1・2歳児は10分間隔で顔色、口元、お腹、寝方の観察と記録で予防に努めている。コロナ対策としては、保護者の方には玄関までの送迎（0歳児は室内）で協力をお願いしている。

8 評価項目8
保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

各保護者の事情を考慮した対応に努めている

パンフレットに「個々の家庭状況に合わせながら、一貫した対応で子ども、保護者のサポートをする」と提言し、保護者の就労と子育て両立への支援をおこなっている。毎月家庭の事情に合わせて保育時間の契約内容が変更でき、急な残業などによる時間延長にも随時対応している。送迎時の会話や連絡ノート、個人面談などで把握した事情を、考慮した柔軟な対応に努めている。玄関に設置している意見箱や保護者会、運営委員会、行事後アンケートでは保護者の考えや提案、要望を聞く機会とし、必要に応じて職員会議で検討し可能な限り対処や改善に努めている。

園と保護者の協働によりオンライン夏祭りをして楽しむことができた

昨年は、保護者会や夏祭り、親子レクリエーションなどで保護者同士の交流がおこなわれていた。今年は新型コロナウイルス対策として、夏祭りを職員と保護者の協力により、オンラインで実施することができた。内容の工夫では、職員が夏をイメージし、興味のある昆虫カブトムシの本物や制作物で動きを見せたり、夏のお絵描きから、マーブリングの面白さを知らせ個々の作品はお土産にしている。最後にみんなでダンスを踊り、20分程度の自由参加型で家庭で楽しい時を過ごすことができた。今年は園だよりを通し行事の変更等も、早めにお知らせしている。

今後は保育参観や参加で子育てを学ぶ機会の取り組みに期待したい

ブログを活用して行事の様子や日常を伝えている。イベントや遊びの報告時は写真にコメントを載せて廊下に掲示している。保護者が掲示物を見学している時に、子どもの成長や発見、学びを短時間でさりげなく伝え、コミュニケーションを図るように努めている。ナーサリー文庫では子ども、保護者向けの貸し出し本があり、楽しみとなっている。保護者会や面談など、話し合いの機会はあるが、今後は保育参観や参加で日常保育の食事や排泄介助の仕方、言葉のかけ方接し方など保育者の対応から、子育てを学ぶ機会をつくり、園と連携した取り組みに期待したい。

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている 評点（○○）		
	評価	標準項目	
	●あり　○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
	●あり　○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目9の講評

体力づくりを目標に近くの公園や広場に出かけ季節を感じながら自然体験を楽しんでいる

園の案内に「子どもを取り巻く地域社会とのつながりを大切にします」と提唱し、散歩を取り入れている。体力づくりを目的とした歩き散歩では、外ならではの風や光など五感を使って感じ取ることができ、未知への体験も楽しい気持ちを誘っている。時節の自然では、どんぐりや松ぼっくり拾い、バッタを追いかけ、池で鯉や鴨を見たり、秋頃からは大型遊具に挑戦している。園内には、お散歩マップを掲示して保護者にも目的地を知らせている。1・2児の合同散歩では、1歳児は手を繋いで歩く経験や、2歳児は下の子との関りから微笑ましい姿が見られている。

地域の人と交流する機会を活かし楽しい体験をしている

例年は、近隣の手話サークルから読み聞かせのボランティアが来園して、子どもたちと交流をしている。簡単な手話や、絵本の読み聞かせ、紙芝居など興味のある楽しい時間となっている。シルバー人材センターで関わりのある方を、歌あそびの会やクリスマス会に招待して一緒に楽しいひと時を過ごしている。また地域の民生委員さんを夏まつりに招待した。現在コロナウイルス感染防止・予防のため地域との交流は休止している。またこのような状況の中でも交流の良さを活かし何か出来る事はないか職員で模索している。

地域子育て支援として育児相談や園見学をおこなっている

地域子育て中の保護者を対象とした、さまざまな子育て相談に、園長が対応し記録している。また、地域の方の希望に応じて一時的にお子さんを預かる一時預かり保育を、午前8時から午後6時まで、生後4か月から予約制で行う予定はあるが、現在は実施には至っていない。ホームページからは、園の情報や様子がわかるようになっている。園の見学には随時対応し、今年度はコロナウイルス対策として、6月から11月の間の見学会の回数を増やして、1度に集まる人数を調整した配慮で実施している。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル①	食べることが楽しみになるよう子ども目線の環境設定や実体験で楽しんでいる	
内容①	「食べることは楽しいこと」と主体的に食に関心や意欲が持てるように取り組んでいる。0歳児から2歳児までの乳幼児の食を栄養士と保育者が協働して支援している。食に関する環境の工夫では、食材を子どもの手のひらサイズで握り、ラップで包み、子ども目線のケースに入れて感触を確かめられるようにしている。廊下には季節の野菜を写真パネルにして貼り、親子で献立の貼り合わせを楽しんでいる。興味のある絵本に合わせて、バナナを子ども達の目の前で切り、分け合って食べるなど園ならではの実体験で食への興味を育んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
タイトル②	運営ガイドラインで園運営の水準の向上を図っている	
内容②	運営ガイドラインとして園運営に関するすべての項目が分かり易く整理されている。ガイドラインは入職時に研修し、園で読み合わせ、浸透度クイズで理解度を確認し徹底することで業務水準の向上を図っている。また、委員会を設定し毎年必要な箇所を見直している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	絵本が毎日の園での遊びや生活に積極的に活用されている	
内容③	毎月、一人ひとりの子どもに絵本が届けられており、クラスで読み聞かせに活用されている。子どもたちが興味を持った内容を、創作活動やごっこ遊びに発展させるなど、年齢に応じた楽しい取り組みにつながっている。職員による絵本委員会が活動しており、活用についての意欲や工夫を高める役割を果たしている。	

《事業所名：ココファン・ナーサリー東小金井》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	一人ひとりの園児と向き合って丁寧な保育を行い、自分で遊びたい玩具や絵本を選択し自由に遊び主体性を育む保育に努めている
	内容	一人ひとりの園児と向き合って丁寧な保育を行い、子どもが主体的に人・もの・ことにかかわれるように見守り、自分で遊びたい玩具や絵本を選択し遊びに集中できる保育を心がけている。0歳児には保育者との抱っこや触れ合いなど愛情のある関わりで笑顔を見せ安心感、自己肯定感の基礎を育んでいる。1～2歳児には発達に合わせて一寸だけ先を見て声をかけ、コーナーでブロック遊び、パズル、おままごと、ゲーム、お手伝い遊び、ごっこ遊びなど自由に夢中になって遊び、自発性や好奇心、集中力、思いやりなど一人ひとりの成長に合わせて育んでいる。
2	タイトル	職場では話し易く、成長や努力を認め合い、助け合い、チームワークを大切にして、働きやすい職場づくりに努めている
	内容	園の保育理念・方針・目標など方向性を全職員で共有し日々の実践を通じて理解が深まるように努めている。職員会議では全員が発言できるように配慮し、クラス会議や小人数の会議で自発的に発言し易い場を設定している。また、委員会などで役割を持ち個人の存在感を尊重し、職員の話をよく聞き、成長したことや努力したことを認め、職員間でも、話し合い・協力し合い・助け合うチームワークを大事にしている。また、残業の削減に努め、希望休を聞きシフト編成に配慮し、長く働ける多様な働き方を尊重するなど働きやすい職場づくりに努めている。
3	タイトル	キャリアパスに基づき個別育成計画を設定し、本部で新任・階層別・フォローアップ・専門研修など実施し職員育成体制が充実している
	内容	人材育成制度に基づき、キャリアパスとして、一般から上級まで職務・役割、求められる能力・教育、期待役割項目等が明示されている。自己評価の上で年2回の期待役割面談を通じて役割や目標を自覚して個人別育成計画を設定している。研修は本社にて新任研修、階層別研修、フォローアップ研修、専門研修等があり、外部研修、園内研修も実施するなど充実している。新任にはコーチが付き個別に丁寧にOJT育成し、入職前と合わせて年間4回の合同研修がある、コーチにはコーチ研修があり共に育っている。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保育日誌で活動の様子と自己評価を記録している、さらに何を体験し学んでいるかを観察し環境設定と関わりを評価するように望みたい
	内容	全体的な計画は職員会議で話し合い学びながら作成し、指導計画の年・月・週・日に落とし込み、一貫性を持たせ職員間で共有している。日々の保育を保育日誌で振り返り、週案・月案で評価・反省し次の計画に反映している。保育日誌の振り返り記録は子どもの活動の様子と自己評価を書き、翌日の計画に反映している。今後さらに、子どもの遊ぶ姿と何を体験し学んでいるかを観察し、保育者の環境設定と関わりを評価・反省して記録するように望みたい。また、複数の職員で話し合って記録することが望ましい。
2	タイトル	保育理念を実践通じて話し合い、一層深く理解できるように期待したい
	内容	職員は働く方向性と価値観を共有するために、保育理念・方針・目標・取り組みを職員会議で繰り返し説明・確認し、また日々の実践を通じて理解を深める様にしている。様々な保育体験を持っているので保育感に差がることも事実であるが、保育者間で話し合いの機会を持ち、保育所保育指針を基本に当園の保育理念・方針・目標をもとに、行動指針となるキーワードを話し合い、共有・実践し、振り返り、みんなで価値観の共有を実践通じて深く理解できるように望みたい。
3	タイトル	長く働きたい魅力のある職場としてさらに発展することが期待される
	内容	教育研修制度が優れており、現場での残業削減、希望休の配慮、チームワークの強化など働きやすい職場に向けて努力している。さらに長く働きたい魅力のある職場として発展することが期待される。職員一人ひとりが保育所保育指針と園の保育理念を基礎として、やりたい保育を創意工夫・実践し自己実現が充実できる様に期待したい。また、一人ひとりの長所や努力と成長を一層浮き彫りにして、職員間で他利に徹し、感謝の信頼関係を深め、個性を尊重し、一人ひとりの持つ力を最大限発揮でき自己実現できる職場を期待したい。